

IMS
2022

21st Quinquennial
Congress of the
International
Musicological Society



August 22–26, 2022
Athens, Greece

f t @IMSmusicology

「越境する音楽」

世界は、グローバル・ネットワークで相互接続される一方、国家主義・民族主義、人種主義、旅行制限、そして今地球規模のパンデミックによって分断の危機にさらされている。この世界では国境・境界での紛争が絶えない。それでも音楽家らは、これまでと同様、ディアスポラ、帰還、強制または自発的な移住によって、移動を続け、音楽とその実践、芸術的創作物を携え、新たな環境と交流し、少数者の集団に声を届け続けている。また、諸々の記録技術 – すなわち記憶と記譜から「.mp3」まで – の助けにより音楽の流通は容易になり、音楽が物理的な移動という空間的・時間的制限を克服するようになってから久しい。つまり、音楽は高度に「可動的」になったと言える。

ここ数十年間、グローバリゼーション、帝国主義、移民の問題に取り組む研究者たちは、文化的全体性というイデオロギーに基づく静的な知的枠組みを放棄し、「モビリティ転換」といわれる現象を生み出してきた。これは、人文科学に広範に影響をもたらしている。音楽演奏とその研究は、過去を支配した規範に挑戦しつつ、コスモポリタニズムと文化的な流動性を格別強調してきた。近年のインターメディアリティの理論は、ジャンルやレパートリーといったものが、本質的に流動的なものであると、捉え直そうとしている。芸術上のモビリティ、概念上のモビリティは、脱中心化の力をもたらし、それ自体、学問領域の境界の流動化、方法論の混合、認識論的確実さをめぐって、さまざまな喫緊の問題を提起している。

アテネ2022のプログラム委員会は、音楽学の諸領域において、またその枠組みを超え、次のような議論を導く研究発表を募集する。相互関連する歴史、境界を越えた資料研究、メディア研究、音楽理論、ローカル・グローバルな音楽研究において、どのような研究が実践されているのか。私たちがジャンル、習慣、現実と仮想の空間、南北半球、信念、社会、知識のシステムの境界を越えて活動しようとするとき、どのような関係性がさまざまな遭遇や比較を構造化するのか。それらは公正なものか。芸術の実践、フィクション、科学、環境学、社会学、健康科学、法学と、音楽学との相互作用は、どのようにして高められ、改善されるのか。どのような技術が、分析的、歴史的、人類学的方法論を、最も効果的に絡み合わせることができるのか。移動する音楽家の実践 – 翻訳、変容、仲介 – が、どのようにして私たちの理論的パラダイムの形成に息吹をふきこむのだろうか。

研究発表のカテゴリー

フリー・ペーパー、ラウンドテーブル、スタディ・セッションの提案を受け付ける。プログラム委員会は、現在の研究を反映したフリー・ペーパーをできるだけ広くから募集する。フリー・ペーパーは1本30分とし、発表20分、質疑応答10分。ラウンド・テーブルは、大会のテーマ(上記参照)に関連したトピックに焦点を当てたもののみを募集する。各ラウンドテーブルは、質疑応答と討論を含めて120分。スタディー・セッション

ンはよりインフォーマルなもので、研究者らがある特定のテーマに関する問題点、方法論、研究の枠組みについて意見を交換する機会を提供すると同時に、大会参加者全員に議論の機会を提供するものとする。各スタディー・セッションは、質疑応答と討論を含めて 90 分。

言語

プログラム委員会は、なるべく多くの聴き手が理解できるように、可能な限り英語で発表することを勧めるが、他の言語での発表も可能。ただし、研究発表の応募書類は、英語で作成のこと。

締切

研究発表の応募は、2021 年 1 月 15 日から 2021 年 6 月 30 日までの間に、オンラインで受け付ける。採用された発表者には、2021 年 10 月 31 日までに電子メールで通知する。

